



夜支布山口神社の鳥居と拝殿（奥） 奈良市大柳生町で



（住所）奈良市大柳生町3089
 （祭神）素盞鳴尊
 （交通）近鉄奈良駅から柳生行き奈良交通バスで「大柳生」下

車。徒歩約15分。
 （拝観）境内自由
 （駐車場）あり
 （電話）なし

夜支布山口神社（大柳生町）



夜支布山口神社は奈良市大柳生町の氏神で、夜支布を「やぎゅう」と読む資料もあります。創建は不明ですが、「日本三代実録」によると、859（貞観元）年に朝廷から正五位上を授けられ、平安時代の延喜式神名帳にも記され、1200年以上の歴史があります。

「大柳生村史」によると、800年程前、大柳生

地区の三つの氏神（山口神社、立誓神社、戸隠神社）を現社地に移し、合わせて祭ったのが当社です。境内の摂社・立誓神社は背後の巨石をご神体とし、立誓神社の本殿（重文）は1747（延享4）年に奈良市の春日大

社の旧社殿（第4殿）を移築したもので、「春日移し」と呼ばれます。当社には、1交代で「当屋」と呼ばれる長老の家に神さまの分霊を迎える行事「廻り明神」が伝わり、「大柳生の宮座行事」として2017年に県無形民俗文化財に指定されました。当屋の長

寿を祝う「大柳生の太鼓踊り」も1978年に県無形民俗文化財に指定。若者が造花の飾りを背負い、胸についた太鼓をたたいて勇壮に踊っていました。10年程前から踊り手不足で休止中です。例年11月3日には、ご神体の黒箱等を次の当屋に引き継ぐ「当渡し」が行われ、伝統行事が大切に守られています。

「大柳生の宮座行事」を守る

（奈良まほろばソムリエの会員 伊藤卓也）